

## 「全鍍連」 2023年 4月号 理事長のよこがお

茨城県鍍金工業組合 鹿志村 高道 (有カシムラ工業所 代表取締役社長)

「我が組合の昔と今」



私が鍍金業界に足を踏み入れたのは、今から44年前でした。その頃私が経験したこと、感じていたことを思いのままに書かせていただきたいと思います。

日本の経済はオイルショックから立ち直りバブルに向かって突き進んでいるように思われました。私の地元の茨城県日立市においても環境問題を克服しようと大手企業の担当者を交え、毎月会合を開いておりました。その後は決まって懇親会です。表面上は和気あいあいと酒を酌み交わし懇談しておりました。しかしその頃よく言われたのは、同業者に自分の工場は見せるなということでした。通い箱などで取り引き先が分かってしまうからでした。それでも毎月酒を酌み交わしていました。

また、その頃めっき加工は最終工程のため毎日急ぎの仕事をこなしておりましたがどうしても出来ないとお願いとすぐに「別の所に持っていきからいいよ」という言葉が返ってきて、随分と悔しい思いをさせられました。

しかしバブルが崩壊し企業の海外進出が多くなり社会構造が大きく変わり、同業者の数も大きく減少していきました。我々の茨城県においても3分の1近くになってしまいました。

その後のリーマンショック、東日本大震災そしてコロナショックと数々の困難を乗り越えてきた今の組合は風通しのよい組合になっているように感じられます。皆が本音で話し合える環境になってきていると思います。

私は2年前まで日立製作所の協力会社で作る組合の理事長も務めておりましたが、そのような組合でも同じようなことが起きております。先代の社長の頃は同じ機械加工、プレス加工をしている会社に工場を見せるのをためらっている方もいらっしゃいました。しかし今の経営者は大きく移り変わる社会に順応しようとお互いの会社の諸事情を腹を割って話している様子がうかがえました。

このように日本経済が停滞している中で同じ組合員としての情報を共有し少しでも自分の会社に生かしていけるような組合活動をしていけたらと思っています。

私も理事長として全鍍連の会合に出席し、全国の皆様と情報交換し、それを茨城に戻って組合員の方々に種々の情報をお知らせしようと思っています。

今後とも宜しくお願い致します。